

年頭所感

常任理事 上原 英明

(オーテック電子株式会社 代表取締役社長)



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

また平素より日本防犯設備協会の活動にご理解、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

昨年は、3年間に及ぶコロナ禍もようやく終息に向かい、私たちの生活上様々な動きが次第に活性化されてきた1年でした。

私にとっては当協会において、賀詞交歓会や懇親会が3年ぶりに開催でき、皆様と再び直接の交流ができたことを本当に喜ばしく思っております。

コロナ禍中においてもweb会議を有効活用することにより、会議自体は滞りなく行われて参りましたが、それでもやはり直接皆様とお会いし、そこで交わした会話により新たな出会いが発生するということも実体験する等、webを介した世界だけでは得られない人同士のつながりが大切であるということも再び実感した次第です。

ところでコロナ禍中において爆発的に利用者が急増したテレワークは、コロナ終息以後も尚多くの企業が継続しておりますが、情報セキュリティの上ではさらなるリスクが発生してきました。

テレワークに加え、クラウド型webサービスを採用する企業が急増したことにより、各企業はどうしても会社外部のネットワーク環境にアクセスする機会が増えます。

従来であれば企業内ネットワークと外部環境の間に設けられたファイアウォールという障壁により、不正アクセスや外部の許可されていない通信を防御していたものが、外部との通信頻度が高まるにつれ、また個人使用のPCで会社環境にアクセスする状況の増加がサイバー攻撃者たちの格好の対象となってしまう、多くの不正アクセス被害が報告されることとなりました。

こうした状況下、これまでのファイアウォールを利用した境界型セキュリティでは限界があるとされ、これに対するセキュリティの概念としてゼロトラストと言われる考えが近年の主流となってきました。

ゼロトラストセキュリティは、ネットワークの内側や外側といった区別は行わず、どこからのアクセスであってもまずは信用せず、デバイスをチェックし、適切にユーザー認証を実施し、さらに通信経路も暗号

化した上で、さらには不審なふるまいを常に監視することによりセキュリティの質を高めようという考え方です。

クラウド活用や働き方の多様化に対応するための次世代のネットワークセキュリティということになります。

翻って私達が提供するリアル社会における物理的セキュリティの世界はどうでしょうか。

基本的な考え方はまずは境界型のセキュリティです。守るべきエリアを特定し、そのラインに沿って侵入を検知するセンサーを設置。併せて監視カメラを設置することによりエビデンスを残すとともに抑止効果をも狙います。そして警戒エリア内に立ち入るためには、ICカード等による認証を行います。

しかしながら昨今の市場の方向性として、より高度な認証が求められていることを感じています。カードは貸し借りができてしまう以上、なりすましも可能です。より確実な本人確認を行うためには、静脈、虹彩、顔認証などの生体認証を組み合わせる必要があります。実際そうした二重認証を要求事項として求められるケースも増えてきました。

さらにはそうした認証を経て入室した人々の行動を検知する仕組みも高度化してきています。これまで状況確認、エビデンス、抑止効果という意味合いであった監視カメラに画像解析のAI機能が加わることにより、不審な行動をAIが判断し即座に通報を行う仕組みも実用化されています。

入館のための認証をクリアしている人物をもそのみでは信用せず、都度認証を確実にし、さらには不審な振る舞いをも検知する、ということとなり、これらはまさにゼロトラストという言葉こそ使われていないものの、ネットワークの世界感と同様のセキュリティの考え方がリアルな社会においても進みつつあるということがわかるのです。

このように今後益々防犯設備に関わる私たちの役割も重要なものとなってくると考えます。

尚一層その重責を感じつつ、よりセキュアな社会の実現に向けて邁進していきたいとこの新年に気持ちを新たにしました。

最後となりますが、今年も当協会の活動にご支援ご協力頂きますよう何卒宜しくお願い申し上げます。